



学習指導案作成時に確認したい



7つのこと

	単元の目標・本時のねらいは「～することができるようにする」と表記。
	目標の達成に向けた「 指導事項 」を要検討。※児童生徒の実態等を踏まえ修正・改善。
	「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、「 単元の評価規準 」を設定。 ※学習に即した評価規準という表現は使わない。「単元の評価規準」に内包。 【令和3年度学校体育必携 P.8～17 参照】
	<p>1時間の「学習評価の観点」は、原則1つ。</p> <p>※評価のための評価ではなく、1時間毎の「ねらい」に正対した振り返り・まとめを行い、それを受けて次時につなげていく評価である。</p> <p>※単元前半（2・3時間目等）に指導し評価したことが点のままで終わらず、他の評価項目と効果的に編み合わせながら、単元後半のよりよい姿に紡いでいけるように、点と点を効果的に結び付けていけるとよい。</p> <p><u>3つの資質・能力が相互に結びつくイメージ。</u> ★相互に関連付けながらバランスよく育むことができるように。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> </div> <p>※そのためには、「指導内容」が明確かつ、ある程度具体的になっていることが重要。 ここがざっくりしすぎている指導案が多い。</p> <p>ねらい 「たくさん得点するために、ボールを持たないときの動きを工夫しよう」</p> <p>▲指導内容 「メインゲームでの動き」 ※具体的ではない・・・</p> <p>○指導内容「 _____ 」 ←あなたなら何を指導内容にしますか???</p> <p>守備者をずらす動き? フリーになる動き? フリースペースへの走り込み?</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> </div> <p>※「知識・技能」については、単元前半の指導と評価では、「知識」に重きを置きつつ、単元中盤から後半にかけて、運動を介して・仲間との学び合いをとおして、「分かるとできるが相合わさった『知識・技能』の姿」を見取っていけるようにする。できるようになるために何を知る必要があるか、理解したことを試す中で「できる」を実感できるような場面を設定しているか、など知識と技能を関連付けた指導が求められる。</p> <p>※「思考・判断・表現」については、「児童生徒が解決したい課題」があって成り立つもの。 児童生徒にとっての必要感を大切に。（児童生徒の思いや願いを生かし、思考に沿った授業づくりが求められる。）</p>
	8 本時の学習と指導（1）ねらいと◆単元の評価規準が一致するように明記。 ※ここが正対しない指導案が多い。
	努力を要する状況の児童生徒には、具体的な手立てを講じるとともに、必要に応じて単元終了まで指導と評価を繰り返す。
	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）の欄には、文末が「～させる」ではなく、「 ★★できるように、▲▲する 」「 ▲▲することで★★できるようにする 」と明記。 ※★は児童の姿、▲は指導内容になるように表現する。（安全面に關わる内容はこの限りではない）

授業等に生かせる体育コンテンツ集

【コロナ禍における体育・保健体育の授業づくり】

コロナ禍における体育、保健体育の教師用指導資料
【スポーツ庁】



家庭での体育、保健体育の学習コンテンツ参考例
【スポーツ庁】



埼玉県マスコット
「コバトン」
「さいたまっち」

【学校体育に関する資料】（県立総合教育センター）

- ・長期研修教員の研究資料、
- ・研究協議会、調査研究、講演会等資料
- ・内容のまとめりごとの評価規準（例） 等



【体育・保健体育の授業における ICT 活用について】

体育・保健体育科の指導における ICT の活用について
【文部科学省】



義務教育指導課 研修用資料サイト
ICT 教育ガイドライン（体育）
【埼玉県教育委員会】



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」